

# 特集 お父さんと子育て

紙おむつのCMや、子ども番組で歌われているお母さんを題材にした歌が批判を受けているようです。『母親はこうあるべき』というプレッシャーや、これから子どもをもつ世代へ負のメッセージを与えているからだ、といわれています。子育ては誰がするものなのでしょう？子育て真っ最中のお父さんと、これからを担う若い人たちに、インタビューしました。さて、どんな声飛び出すのでしょうか。



## 育児奮闘中のパパに 突撃インタビュー in 打出浜公園 ～とある1月の土曜日～

### 質問内容

- ①公園にはどれくらい遊びに来ますか？
- ②イクメン、カジメンと言われますが、よく行っていることは？
- ③子どもが生まれてからの生活スタイルは変わりましたか？
- ④学生時代、子育てについてイメージはありましたか？
- ⑤夫婦で子育ての考え方の違いは？
- ⑥自分の時間はありますか？
- ⑦父親にとって、もっとこういう社会であればという希望は？
- ⑧これから家族を作っていく世代に向けてメッセージを。



Kさん親子

- ①月に2、3回くらい、土日に遊んでいる。
- ②公園でサッカーや野球をしたり、できるだけ子どもたちや家族との時間をもつようにしている。
- ③なにをするのも、家族のことをいちばんに考えて行動するようになった。
- ④具体的にイメージしたことはなかったし、考えてもみなかった気がする。でも実際に子どもをもつと、可愛くて仕方ない。
- ⑤どちらかというと、妻が厳しくて自分は甘いなあと思うときはある。でもそんなに違いはないかな。
- ⑥土日にはある程度自分の時間も持つようにして、気分転換している。
- ⑦プライベートも大切にできるよう、もう少し有給がとりやすければ良いと感じる。
- ⑧子育てはお金がかかるのが、大変。でも、この子たちのためにパパは頑張ります。



Yさん親子

- ①週に1～2回、土日によく遊んでいる。
- ②休みの日は風呂掃除や、子ども2人をお風呂に入れたり。料理もたまにする（得意料理はハンバーグ）。
- ③休みの日も早く起きるようになったり、子ども中心の生活に変わった。
- ④子どもが好きで、学生の頃から子どもはほしいとずっと思っていた。思っていた通り、本当に可愛い。
- ⑤基本的に妻が育児を担当しているので妻の意見を尊重するようにしている。
- ⑥平日の飲み会やコミスクのサッカーのコーチなど、少しは取るようにしている。
- ⑦同僚や部下が出産補助の休暇をとった。今は男性も子育てをしやすくなってきていると思うので、このまま良くなって欲しい。
- ⑧子どもがいたら、いい人生は送れると思う。でも、いなくてもいい人生は送れると思う。あなたが思う道を。



Kさん親子

- ①週1回、土日に。こどもは砂場や滑り台が好き。
- ②ご飯を炊いておいたり、掃除など。週に何回かはお風呂にいれたり、できるときはおむつ替えも。4月から保育園の送り迎えが加わる予定。
- ③子どもの生活リズムに合わせるので、家族でお出かけをするのも帰りが遅くならないように考えるなど、規則正しくなった。
- ④特に考えていなかった。甘えんぼで1人でも大変なのに、公園に兄弟を連れてきているパパはえらいと思う。
- ⑤最初は子どもの言うことを聞いていた⇒僕の言うことを聞かなくなる⇒悲しい⇒教育方針見直し。今はともに厳しいので、妻との違いはあまりない。
- ⑥自分の時間はほとんどない。子どもがいるので仕方ないかな…
- ⑦育休男性がほとんどいないので、もっと男性も子育てを担いやすい社会だったらと思う。
- ⑧なるようになる、なるようにしかならない。子どもがいなくて楽だけど、いる今、幸せです！

いきなりのインタビューに快く応じてくださり、ありがとうございました。  
インタビューを終えて公園を出るときも、寒空のなか、お子さんと一緒にまだまだ遊ぶ姿が印象的でした。



## 大学生はどうしてる？ 子育てについての気持ち



### ■「イクメン」という言葉はもう古い？

イクメンのイメージについて聞いたところ、男子からは衝撃的なコメントが。「『イクメン』と呼んで父親の育児を特別扱いするのはちょっと。パパの育児はもう当たり前。だからイクメンという言葉は、好きではないですね」。女子にとってイクメンのイメージは、「子どもの世話も家事も積極的にしてくれる男性かな」。



### ■しっかりコミュニケーションする夫婦が理想

将来、なりたいパパ像については、「子どもに戻って一緒に遊ぶパパ」とのことでした。そして「疲れていても妻にねぎらいの言葉をかけたい」。女子からは、「夫婦で納得のいく育児・家事分担ができればいいですね。しっかり夫とコミュニケーションをとり、協力し合いたい」と男子も女子も、夫婦の育児や家事での意思疎通を大切に考えているようでした。



今回おじゃましたのは…

甲南大学文学部社会科学部 中里教授ゼミ



甲南大学文学部 教授 中里英樹先生  
芦屋市男女共同参画推進審議会副会長

ゼミでは、「ジェンダー論および人口学をふまえて、日本と世界における個人・家族と働き方を考える」をテーマに研究しています。

### ☆インタビューを終えて☆

子育て中のパパ、そして学生さんの力強い言葉を聞き、ママだけの子育てから、パパも共に担い、地域も関わる、みんなで次世代の宝である子どもたちを育てていく男女共同参画社会は、そんなに遠くないのかも、と頼もしく感じられました。



### ■子育ては大変そう。でも喜びもあるはず

子育てに対しては「大変だと思います。父が休みをすべて僕と弟のサッカーの付き添いに費やしてくれたことには感謝しています。僕もそうしたい」という意見が。また「同じ年で子育て中の友人は夜も眠れなかったり、とても大変そう。でも喜びも多いのでは」と話してくれました。



### ■子育て中のパパに、エール

授業で赤ちゃんの育児体験をしたことがある学生さんからは、「子育ては我慢が大事！」と一言。また、「子どもはきっと親の苦勞に感謝します。頑張って」とエールが。また女子からは、「子育ての方法は、いろいろな選択肢、様々な関わり方があると思います。仕事をしつつ、自分が信じた育て方で、でも、家庭も大切に、妻の思いも受け止めてね」という要望がありました。

